

みなとMOTOMACHIケンチクさんぽ vol.20

公益社団法人 日本建築家協会 近畿支部
兵庫地域会 地域まちづくり委員会

アーケードの魅力

春節の前になると、元町商店街の設えが春節仕様になるのです。南京町と並行する一丁目から三丁目までスズランの飾りに赤い提灯が加わります。元町商店街は大都市中心市街地型のアーケード商店街です。

現在の元町駅のあたりに三ノ宮駅ができてそれが東に移転し、最初の三宮駅の付近には元町駅が作られました。その南側に広がる商店街です。江戸時代から西国街道は大坂を経由せず京都と西国をつなげる道で、西国大名の参勤交代に利用されていました。この辺りでは、神戸市役所、三宮神社、大丸と来て、元町商店街に入るルートとなっています。その名残がこの商店街の魅力ともなっています。もっとも直接の物的な遺構はほとんどないのですが、江戸時代の繁栄が震災や震災を乗り越えて受け継がれているのです。中山道のような古

道がいまなお各地で魅力的な都市景観を呈しているのはよく語られるところです。全天候型アーケードは1955年に建設省の商店街整備事業から始まり1980年に完成します。震災や震災を経ての関係者の努力の跡が歴史の重みに重なっています。

神戸元町商店街のアーケードは、まず何よりも道幅が広いのが特徴です。そして長く、大丸の前から西へ1.2kmにわたります。老舗の多いのも特徴です。テーラー、美容室、洋菓子店などモダンズムを感じさせます。モダンズムというのはすこし古いというニュアンスがあり、大正・昭和戦前の雰囲気も伝えているのでしょうか。菓子店が多いのが際立っているのでしょうか。瓦せんべい・金つば・モンブラン・ゴフルなど多彩です。創業100年を超える老舗もいくつかあります。お店の構えや設えに重厚感があります。アーケードがなければ、もっとすばらしいだろうと思わせる表構えもありますが、眺めて

歩く楽しみがあります。2003年に定められた景観形成の協定により「高級感」「ハイカラ」「エレガント」をキーワードとすることになっています。

商店街と交わる横道が変化に富みます。本誌の349号で山隈直人さんが元町商店街の精緻な分析をされています。「商店街と交わる路地や道路から見える景色の魅力は他の商店街には見られません」。南京町や六甲の山々が見える眺めが魅力だとの指摘でした。

元町映画館はユニークな存在で、ウェブでの紹介「街角や商店街には必ずあった映画館が次々と姿を消し、テレビで宣伝しない映画は上映の機会をなくしています。世界中の優れた芸術作品の上映数は減り、映画芸術の過疎化が進んでいます」という問題意識から出発しています。神戸元町みなと古書店がこうべまちづくり会館の1階にありますが、これも商店街に厚みを増しています。



神戸元町商店街4丁目



重厚感ある細部

多彩なアーケード

英語のアーケードarcadeのarcは弓形、アーチですから、柱の上にある連続したアーチの屋根のある通路をいうところから発生した用語です。おおむね商店街です。ただ日本では屋根が平らな場合もアーケードと呼びます。一般的にいうと、ヨーロッパのアーケードは大きな建物をくり抜いたように通路ができています。高級な商店街の場合が多くなっています。18世紀にフランスで発生し、「パサージュ」と呼ばれています。それに対し日本のアーケードは、もともと屋根のなかったところに屋根を架けたものです。両者とも雨やつよい日差しに妨げられることなく、真っ直ぐ歩きながら買い物ができるという点では同じ意図を持っているといっていいいでしょう。

京都では、目抜き通りの四条通から北へ寺町京極商店街と新京極商店街があり、それと直行する錦市場が都心型のアーケード商店街で有名です。地域密着型の出町櫛形商店街は元氣

でユニークなので紹介しておきましょう。京阪電車の終点出町柳駅から鴨川デルタを超え西に行ったところ、河原町通と寺町通の間にあります。北陸から運ばれてくる魚が通った鯖街道の終点にあります。大正年間に周辺に食料品店の集積が始まり、1974年にはアーケードとなりました。アニメの「たまこまーけっと」や「夜は短し歩けよ乙女」の舞台となっていて、若い人による聖地巡礼の対象ともなっています。2017年に映画館の出町座が開館して、やはり商店街の雰囲気や少し変えました。元町映画館と通ずるものがあります。

ベルギーの首都ブリュッセルには、「ギャラリー・サンチュベール」という19世紀半ばにかけて建設されたアーケードがあります。ファサードは3層となっていて、天井はガラス張りになっています。劇場やレストランのあるショッピング・アーケードです。荒れた場所であったところを改良しようとした点では、日本の商店街のいきさつとも似ています。世界遺産の候補にもなってい

ます。

もうひとつ驚いたのはカーディフの商店街です。英国ウェールズの首都カーディフは「アーケードの都市」とさえいわれるほど、迷路のようにアーケードが続いています。高級アーケードから庶民的なアーケードまであり、天井の高いのやら低いのやらがあります。降水量は1200mmでイギリスの中では多い方ですが、日本の平均的な降水量1700mmに比べるとそれほど多いわけではありません。ただ2日に一度ほど雨が降るようです。

日本ではヨーロッパの都市中心部に比べて歩行者専用道がとてすくないのですが、それをカバーするのがアーケード商店街です。日本では雨が多く日差しも強いので、第二次大戦後は全国の大都市から小都市までアーケードが普及しています。ところが中心市街地の衰退のなかでシャッター街と呼ばれるような場所が、いたるところで問題となっています。アーケード商店街がとて貴重な日本の財産であることは、元町商店街がつよく主張しています。



京都・出町櫛形商店街の出町座



ギャラリー・サンチュベール



中林 浩(なかばやし ひろし)

2021年まで神戸松蔭女子学院大学教授／都市計画学や景観問題の研究／博士(工学)